



岐阜県東濃地域は、「東濃檜」や「木曾檜（天然）」に代表されるヒノキの主要な生産地です。

林野庁では、次世代に残すべき代表的な巨樹・巨木を「森の巨人たち百選」として選定しています。当署管内からは二本の大ヒノキが選定されており、また、「木曾ヒノキ備林」として貴重な大檜も保存しています。今回は、管内の代表的な巨人たちを紹介します。

①【神坂大檜】



中津川市神坂の湯舟沢国有林に

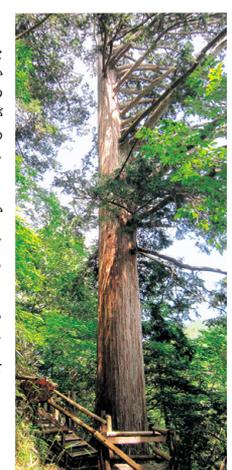
あり、幹周七・二二メートル、樹高が二十五メートル。通称「みさかおおひ」と呼ばれ、「大佛次郎賞」受賞作家の高田宏氏が名付けました。周辺は木曾五木（ヒノキ、サワラ、ネズコ、アスナロ、コウヤマキ）を中心とした天然林が広がり、神々しい雰囲気にも包まれ、長年風雪に耐えてきた天然木ならではの風格があります。

②【笠木】



恵那市の上村恵那国有林にあり、幹周七・五四メートル、樹高が二十六メートル。根元に大きな瘤があり、太い枝が張り出し、笠のような樹形が特徴です。戦国時代の裏街道で笠置地方を監視する場所であったため、このように呼ばれるようになったとも伝えられています。

③【二代目大ヒノキ】



中津川市の加子母裏木曾国有林にあり、幹周四・八四メートル、樹高二十六メートル。昭和五十六年、当時の出ノ小路担当区主任（現・西股首席森林官）が三年余りをかけて見つけた推定樹齢千年前後の大檜です。

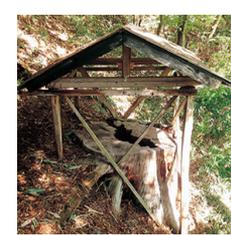
初代の大ヒノキ（後述）のような山神の宿のような理想的なヒノキではないといわれていますが、過去に裏木曾から伐採された巨木で、これを上回るものは、昭和二十九年の初代大ヒノキ、昭和十六年の伊勢神宮御扉用材、天保九年の江戸城西の丸御殿復旧用材の三本のみとされています。一帯は自然観察教育の場として専門のガイド付きで巡ることができます。

④（番外）【初代大ヒノキ】切り株

江戸城西の丸焼失再建の際、幕府から派遣された惣奉行「川路三左衛門」によってご神木とされた

木曾山随一の大檜がありました。

昭和九年の室戸台風で折・枯損し、後に学術参考のため伐採されました。切り株の平均直径は二・二メートル、断面は畳三畳ほどもあります。



「二代目大ヒノキ」と等高線上の谷を挟んで真北の南斜面に現存しています。

※見学にあたっては現地へは、登山と同様、自己責任が原則です。また、入林届等の諸手続が必要となる場合や車道、林道等を通行することが必要となりますので、事前に東濃森林管理署までご確認ください。

◆各巨木へのアクセス【自動車】

- ①② 当局ホームページ「森の巨人たち百選」に掲載。詳細は、以下のQRコードを読み込んでください。
- ③④ 中央道「中津川IC」から国道二五七号経由約百分（約三十九キロメートル）

